

第61回北海道市町村教育委員会研修会



教育長職務代理者 金井 秀明

令和8年7月16日に札幌市教育文化会館で開催された「第61回北海道市町村教育委員会研修会」に参加してきた。全道144市町村から700名弱の教育委員および教育委員会関係者の参加があった。北海道町村教育委員会連合会・細田典男会長の開会挨拶の後、川端絵美北海道教育委員の祝辞があり、功労者表彰が引き続き行われた。

令和9年度文教政策に対する要望事項は下記の通り。

1. 町村教育委員会の充実・強化（指導主事の配置）
2. 学校教育の改善・充実（小中学校教職員定数の改善など）
3. 生涯学習・社会教育の振興・充実（生涯学習の振興など）
4. いじめ・不登校対策（スクールカウンセラーの配置拡充など）
5. NHK放送受信料免除措置の継続

以上5項目が、中島俊明北海道教育委員会教育長に要望書として提出された。

講話では、北海道教育大学函館校の田中賢一教授が「これからの教育を支える人材の育成～新しい時代を迎えるためのマインドセット～」と題して講演を行った。

午後からは、北海道教育庁学校教育監・伊賀治康氏から「北海道教育委員会の施策について」の行政説明があった。高等学校授業料無償化の影響分析（速報値）が報告され、地域によっては公立高校から私立学校へ入学者がシフトしている傾向が見られるとのことであった。釧路地方では、十勝、石狩学区への進学者が前年より約69%増加したとのこと。

部活動の移動手段に係る当面の取り扱いについては、北海道の広域性を考慮し、公共交通機関や営業自動車の利用が困難な場合、レンタカーなどの利用も可能とするとのことであった。

いじめ対策においては、いじめの疑いがある場合は担任が個人で判断するのではなく、校内のいじめ対応チームに報告し、組織的な対応を取る必要があること。不登校児童に対しては「メタパスde居場所」（インターネット上に構築された3次元の仮想空間を利用して支援員や友達と交流できる）を利用することも可能である。また、スクールロイヤー（学校内弁護士）の活用が年々増加しているなどの報告がされた。

フォーラムでは増毛町と大樹町の事例発表が行われた。増毛町教育委員会の佐藤敏治教育長からは「増毛町の文化遺産（歴史的建造物）の活用と学校教育における保護者負担の軽減施策」について発表があった。歴史的建造物である旧商家丸一本間家を利用しているほか、道内最大級の木造建築である増毛小学校旧校舎は、消防法との兼ね合いからイベント時に利用しているとのこと。保護者負担軽減施策では、学校指定品の支給や各種検定料に対する支援を行っているなどの報告があった。

大樹町教育委員会の沼田拓己教育長からは「大樹町ならではの教育～地域とともに未来を創る教育への挑戦～」と題して発表があった。小学校、中学校、高校が各1校であることから小中高連携教育を行っているそう。「大樹学」を中心に連続性のあるカリキュラムや、宇宙をテーマにした探究を系統的に学んでいること。大樹町学校運営協議会や大樹町自然体験支援協議会など、町総ぐるみの教育を行っているなどの報告があった。

たくさんのお話を学び、収穫の多い研修会参加であった。



次のリレーコラムは岩原教育長です

教育委員コラム

Column of the member of the board of education

No. 45

2026/8

発行／	弟子屈町教育委員会
教 育 長	岩原 勝行
教育長職務代理者	金井 秀明
委 員	菅原 誓之
委 員	吉田 一徳
委 員	宮田 昇子

浜中町で移動教育長会議開催

教育長 岩原 勝行

年に4回開催される管内教育長会議ですが、うち1回は市町村持ち回りで「移動教育長会議」という形式を取っています。今年は7月7日に浜中町を会場に開催されました。

初めに町内視察が行われ、湿原センターや琵琶瀬避難文化センター、ラッコで話題の霧多布岬などを見て回りました。

その後、役場で会議が開催され、教育課題に対する情報共有と意見交換などが行われました。



第46回「少年の主張弟子屈大会」

教育長職務代理者 金井 秀明



少年の主張弟子屈大会が、ご家族や先生方が視聴される中、5名の中学生が参加し開催された。親の大切さを分りながらイライラする自分がいる「親の大切さ」を発表した藤原尚太さん。好きな野球選手の薬物使用が考えるきっかけになった「薬物乱用のない未来へ」の祖父江正雄さん。自閉症のドラマを見て考えた「個性を尊重する社会へ」の岡田和楓子さん。なぜ人は見た目で判断するのか、ルールは誰のためにあるのか、二つの疑問から「社会の中で疑問に思っていること」を訴えた鈴木梨衣沙さん。一日に何度も手に取って見てしまうスマホについて「SNSと情報の信頼性」を弁じた鈴木蒼真さん。体験や考えを述べる姿は、落ち着いて堂々としていた。

若者の内面を垣間見ることができ、来年は生の声を多くの方にも聞いていただきたかったと思った。

摩周和牛のビーフシチュー

教育委員 菅原 誓之



6月23日、恒例の移動教育委員会が、和琴小学校を会場に開催されました。

この日は令和8年第6回目の教育委員会で、議事日程「①会議録署名委員の指名について」「②会期の決定について」「③教育長行政報告について」という内容で進められました。

移動教育委員会ということもあり、傍聴席には校長先生と教頭先生も出席。終了後にはPTA役員の皆さんとの意見交換が行われました。その後はいよいよ、お楽しみの給食です。メニューは摩周和牛のビーフシチュー、カボチャのサラダ、コッペパン、手作りリンゴジャム、牛乳でした。皆さん、お替わりもできて満足の給食でした。

研修会と博物館

教育委員 吉田 一徳

北海道市町村教育委員会研修会に参加し、空き時間を利用して北海道大学総合博物館を見学してきました。研修会ではフォーラムや講話がありましたが、特に増毛町の佐藤敏治教育長の講話にあった「学校教育における保護者負担の軽減施策」が弟子屈の軽減策と共通点が多く、今後の参考になりました。

北大総合博物館は1929(昭和4)年建築ということで、外観だけではなく内観も歴史を感じる建築物でした。内容は北大の歴史から北海道産の動植物や化石など幅広い展示でしたが、蠟(ろう)作りの医学標本などは、とてもレアな展示です。

現在は「北大の恐竜たち」という企画展を11月1日まで行っています。サツエキまで行く機会があれば、ぜひ見学してもらいたいです。



台湾ルカイ族の伝統と現状を知る

教育委員 宮田 昇子

台湾国立成功大学考古学研究所のタイバン・ササラ教授の講演会が6月30日に町公民館で行われました。

本町と台湾屏東縣霧台郷(へいとうけんぶだいごう)は昨年、アイヌ民族と台湾ルカイ族の交流などに関する連携協定を締結しています。講演会は連携協定を記念して開催されたもの。自らもルカイ族であり、その文化や伝統を研究するタイバン教授が「ルカイ族の狩猟文化における伝統と現代の変容」と題して、時にユーモアを交えながら講演し、聴衆を魅了しました。

教授に同行した学生さんの中には、ルカイ族やその他の少数民族の方もいて、それぞれの学問を志した理由とバックグラウンドなどの話も興味深いものでした。



7月、弟子屈中学校の2年生が町内38事業所で職場体験を行いました。飲食店などで姿を見かけましたが、皆さん一生懸命に取り組んでいました。私自身は職業体験を行ったことがなく、羨ましい限り。

世の中には自分が想像していた以上に様々な仕事があり、いろいろな形で社会を支えていることを、私は大人になってから知りました。現在もまだ、知らない仕事や事業活動、経済活動があるのだらうとも思います。

進路や職業、キャリアの選択に直面する前に、仕事に触れる経験は、とても有意義だったことでしょう。受け入れに協力して下さった事業所の皆さんにも感謝です。(宮田)

編集後記